

## わくわくエブリスタディ・国語 12

よみとりとよむ



※問題文は『わくわくエブリスタディ』  
をご覧ください。

月  
日

出典★原ぐみ 作「なつのおつかい」ボウズ社刊より



5 ぼくや  
ひなこが  
見た オニヤンマの  
絵え  
を 紙に  
かいて  
みましょう。

4 ひなこは、つかめた オニヤンマの  
大きさを  
どのように かんじましたか。

鳥みたいに大きい。

いつしゅん、体がうか  
んだ気がした。

——とあります。オニヤンマをつかめたしゅんかん、ぼくはどのようにかんじましたか。

2 上の文を声に出して読みましょう。  
——は、ぼくが心の中でさけんだことばです。どのように読むといいか考えて、声に出して読みましょう。

3 ——とあります。オニヤンマをつかめたしゅんかん、ぼくはどのようにかんじましたか。

1 上の文を声に出して読みましょう。  
——は、ぼくが心の中でさけんだことばです。どのように読むといいか考えて、声に出して読みましょう。



- 登場人物の心情を考えて読む。
- 描写された事柄から事物の様子を想像する。

### 支援のポイント

2 「どんな気持ちで読むといいかな?」あるいは「とんぼの王さまを見つけたとき、○○ちゃんならどんな気持ちになるかな。」などと語りかけ、「ひこうきみたいなかつかり」とんぼ」を見つけた感動を表現するのにふさわしい読み方を考えてもいいでしょう。「心の中で」叫んだという記述から、声を殺すように読んでもよいでしょう。

4 ひなこの会話文を見つけて感動を読み取ることがポイントです。「ひこうきみたい」「たからものみたい」と答えた場合は、「ひなこが思つたことが書いてあるところは、ほかにあるよ。」「大きさはどう感じているかな。」と問い合わせましょう。

5 問題文の描写から「王さま」であるオニヤンマの姿を絵に描いてみる取り組みです。描く前に「お話を、オニヤンマのことがどんなふうに書いてあるかな?」などと問い合わせ、オニヤンマの特徴をとらえさせましょう。お手元に紙を用意してから取り組んでください。

### 今回の学習のねらい

### ほめ方のポイント

2 音読の学習では、すすんで工夫して読もうとする態度をまず評価してあげてください。ここでは「王さま」を見て表現することになりますが、「ぼく」の気持ちをお子さんなりに工夫して読んでいると認められれば、「『ぼく』の気持ちを考えて、上手に読めたね。」「王さまを見つけた『ぼく』の気持ちがよくわかる読み方だったよ。」といった言葉でほめてあげましょう。

5 文章から得たイメージを絵で表すことが目的なので、リアルさにこだわる必要はありません。問題文には色の記述がありますが、どこが何色なのかがわかつてているようなら、単色でもかまいません。

また、例えば「とらみたいにりっぱなかた」を描くために肩を極端に大きくしたり、「たからものみたいに」星を散りばめたりするというように、子どもは印象に残ったことを強調して描く傾向があります。どうしてそのような絵にしたのか、理由を説明してもらったうえで、お子さま自身のイメージを絵で表現できたことを大いにほめてあげましょう。